

世の中不景気とは言え、やはりクルマに対する関心は高いのか、朝からの雨、やや強い風といった天候にもかかわらず、来場者の出足は順調だった。会場内は屋外を避けてか混雑気味だったが、人の流れはよく、各コーナーへも平均して観客が訪れていた。

新「SUW」で疾走 2000年から順次投入 三菱自動車

三菱コーナーでの効率良い人の流れが話題を呼んでいる。メイン展示場を2階ではなく、なだらかなスロープに沿って丘に昇って降りる構造としたため、来場者からも「見やすい展示方法」と評判だ。

この展示ブースを舞台に、ブランドイメージを高めたGDIエンジンを前面に、環境との調和を訴求。統一テーマは「Smart & Ecology」。年内に発売予定のモデルを始め、参考出品は15台と、日本メーカーではトヨタと並ぶ水準で、ショーにかける意気込みが伝わってくる。

同社が新たな商品思想として打ち出したSUW（スマート・ユーティリティ・ワゴン）には、様々なコンセプトが提案されている。このうち参考出品された主なシリーズは

- ① advance ② compact ③ active

の3タイプ。「advance」は1.5リッターGDIと小型モーターを組み合わせたハイブリッドで、リッター31.5キロの燃費性能を実現。フロント、リアのフェンダーが大きく膨らんだフォルムに、若い女性客が思わず「かわいいー」と声をあげていた。これらSUWシリーズは、今後の三菱の主力商品と位置づけられており、来年末の「advance」を始め、2003年までに順次市場に投入される。

展示車のそばに「近日発売」と明記され、来場者の注目度が最も高いのがディンゴに次ぐSUW第二弾となる「ディオ」（7人乗り・2リッターGDI）。来年早々の投入となる。また、1.1リッターGDI搭載でリッター30キロの低燃費を達成したタウンミニ「ピスタチオ」も年内に市販開始予定で、カメラを向ける来場者が目立つ。三菱重工と共同開発を進める燃料電池自動車「MFCV」はコンポーネンツを展示、今回のショーで2005年の市場投入方針を示した。

技術コーナーでは、GDIのカットモデルとGDIの統合パートレイン4シリーズの展示に男性客の人气が高い。また、全面改良したばかりの新型「パジェロ」シリーズは、運転席に乗り込む来場者が後を絶たなかった。



人の流れがスムーズで見やすい展示と評判の三菱コーナー



参考出品の次世代SUW「advance」



近く発売されるタウンカー「ピスタチオ」



ソプラノ響くブース

美しく澄んだソプラノが1日8回、三菱のブースいっぱいに響きわたる。声の主はブルガリアのオペラ歌手 ミレーナ・オグニャノバ・ゲオルギエウパさん（右）とアレナ・イブノファ・ダンチェバさん（左）とくにミレーナさんは「国家の至宝」と称されるほどの人。

ミレーナさんはウィーンを舞台にオペラで、アレナさんはイタリアやフランスでバロック音楽の舞台などで活躍している。モーターショーの会場ではなんとも勝手が違うと思いきや「まるで屋外に作られた小さなオペラステージのよう。音もいいし、うれしい」（ミレーナさん）、「こんなにお客さんに近いステージは初めて。一体感があってとてもたのしい」（アレナさん）と違和感どころかすっかりお気に入りの態。

22日来場された小淵首相もじっと聞き入っていた。問い合わせも多く、早くも日本にもファンが。なお、11月8日、横浜美術館音楽ホールで日本ブルガリア友好コンサート「MILENA & ALENA 美しきオペラの夕べ」と銘打ったチャリティ公演を行うそうだ。

ヘリテージ・デザインが好調 ダイムラー・クライスラー(クライスラー)

米国市場で好評の「ネオン」を大幅に魅力アップして、引き続き日本市場に挑戦する。一見してわかる品質感の向上に、思わず立ち止まる人も多い。とはいえやはり人気の中心は、レトロもここまでくれば極まれの「PTクルーザー」と、燃料電池という最新テクノロジーをマッシュアップした巨大ボディに包んだ「ジープコマンドー」の2種類だ。特に「PTクルーザー」は、来場者から「カッコいい!」と賛辞が続出。ヘリテージ・デザインと呼ばれるクラシカルなボディにもかかわらず、未来風なコストームをまとった女性がそばに立っていても違和感のないところに人気があったようだ。

ジープ・グランドチェロキーは、最新型が登場。押し出しの強いフロントマスクとやわらかいシルエットが受けていた。



クラシカルな実用車、PTクルーザー

強烈な個性と先進性をアピール アウディ

アウディ・ブースで、人が多くて近づけないほど人気なのが、スペシャルティスポーツ「TT」。2+2のクーペと2人乗りロードスターの2種類があり、いずれもターボ付き横置き1.8リットル225psのエンジンに、フルタイム4WDのクワトロシステムの組み合わせ。長さ約4mの小さなボディにハイパワーエンジンというユニークな個性に魅力があったようだ。「TT」に集まる来場者の関心の高さを見ると、このセグメントは今後台風の目になりそうな気配が感じられた。

メインステージでは、今年のル・マンで3、4位となった「R8R」に注目が集まる。そしてこの華やかなクルマの隣にSの称号をつけた高性能セダンが2台。中でもA8用の4.2リットルV8をチューニングしてクワトロシステムで駆動する「S6」は、美しいボディに超強力エンジンの組み合わせで、セダンの理想像を実現、目ざといマニアがしげしげと眺めていた。



圧倒的に人気のTTクーペ(左)とロードスター(右)

100周年を迎えたイタリアの雄 フィアット



5ドアと3ドアの2代目プント

欧州で大ヒットした「プント」がついに2代目になった。今年の7月に発表されたばかりのこのニュー「プント」が、早々と東京モーターショーでベールを脱いだ。一段と向上した品質感、実用性そして快適性は、今年創立100周年を迎えるフィアット社の記念モデルにふさわしく、来場者の反応は高い。日本でも激戦区となりつつあるコンパクトカー市場で勝ち残れるかが注目される。

フィアットブースには、フィアット・ブランドと並んでアルファ ロメオ・ブランドも設置されている。ここでの来場者のお目当ては、日本で発売されたばかりのフラッグシップ・4ドアサルーン「アルファ166」。もちろん、前回のモーターショーで大人気となり、現在も販売が好調な「アルファ156」にも大勢の視線が注がれていた。

27日の入場者数
88,300人

入場者数累計 541,800人

本日ご来場いただきましたVIPの方々(順不同)

タイ王国大使夫人	サクティッフ・グライラク様	衆議院議員	青山 二三様
タイ王国枢密院顧問	サベータシラ様	参議院議員	松 あきら様
		参議院議員	森本 晃司様 他

Topics (第6回) チャイルドシートに高い関心

来年4月から0歳~6歳未満の乳幼児にはチャイルドシートの使用が義務付けられるとあって、ヤングファミリー層の関心を集めているのがその展示コーナー。

「1台で新生児から8歳ごろまでOK」というものや「あのピニンファリーナと共同開発した」ものなど趣向を凝らした新製品がいっぱい。連れてきた赤ちゃんをシートに座せたり、説明を聞いたり、質問したり、みな真剣そのもの。

一方、メーカーも机上の計算でいえば、乳幼児の数だけ需要があるはずという。

ともかく新しい市場とあって期待は大きいようだ。



本領発揮 連絡通路シェルター

天候には恵まれているモーターショー。27日は久しぶりの雨。午後からは本降りとなったが、そこで活躍したのがイベントホールと北ホールを結ぶ連絡通路シェルター。

1993年の第30回ショーから雨対策と会場の一体感を出すために設置したもの。北ホールからイベントホール2カ所の入口まで全長230m、幅が最大で5.6メートル。このシェルターのおかげで来場者は雨に濡れることなくイベントホールと北ホールを往ったり来たり。

この時ばかりは連絡通路シェルターの有難さが身にしみた? ようだが、「このまま駅まで濡れずに行けるといいのになあ」という声も。

